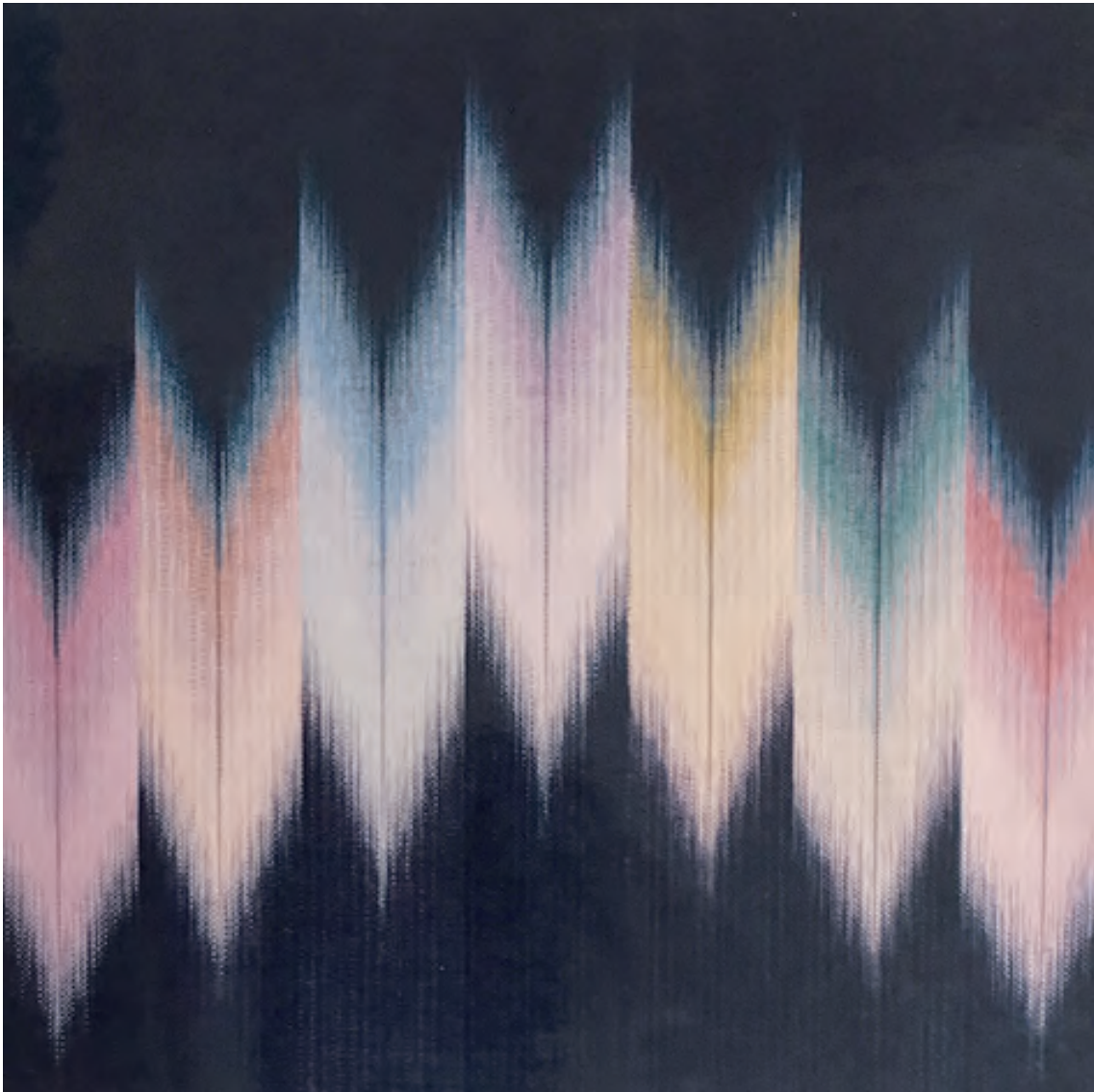


## 『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 桜井 玲子

### < 作品 1 >



#### 『彩』

第50回新制作展（1986年） W2100 x H2170

素材と技法：経糸 ウール / 緯糸 ジュートによる畝織の経絣

「絣とは、織物の発生と同時に、織物の中に必然的に潜在し、まことに自然に織物の素直な命の中から、人間の美意識の発展にともなって、生まれ出た柄であった」と岡村吉右衛門氏は書かれています。その言葉は、私の作品制作の原点となっています。私は、絣の技法の中にひそむ絣足、滲み、ずれ等の美しさに魅かれます。

この作品は、多彩色で渾然とした一色に見える色面に、絣のずれ、絣足等の要素を付け加えることで、動きと情感のある表現を求めて制作したものです。

< 作品 2 >



『境界』

第 55 回新制作展 (1991 年) W2400 x H4150

素材と技法：経糸 麻綿混 / 緯糸 ジュートレーヨン 畝織の経緋

1988 年フランスでの 2 人展 (三岸黄太郎・桜井玲子) の企画をいただいた事がきっかけで、長年使っていた糸の種類を変えてみることにしました。

素材がウールから麻綿混に変わったことで、緋の美しさの探究はおのずと変化してきましたが、形や構図は簡単で単純なものを選択し、素材も又、主張の強い個性的な糸は避けること等々は継続しました。

この作品は、制作手法を変えることなく、緋ぎわの色の揺らぎの効果を表現することで、光や大気の気配を作り出したいと制作した作品です。

< 作品 3 >



『Untitled : 2016』

第 80 回新制作展 (2016 年) W2200 x H3350

素材と技法：経糸 麻綿混 / 緯糸 ジュートレーヨン 畝織の経絣

私は、もともと色に対する関心が強く、色で何かを表現できると考えています。言葉にかわる力が、色にはあると思うからです。

今回は、あえて赤だけで表現してみたいとチャレンジした作品です。様々なタイプの赤からは、それぞれ違った言葉が聞こえてきます。私の感じとれる赤をみつけだしてゆく、とてもたよりない程の小さな感覚を、大切に制作したことを、おぼえています。

色相の単調さがマイナスにならない様な工夫として、動きや奥行感等の要素を強く意識しました。

私は、簡素で単純なものの中に、イメージが内包されている作品、そのようなものを絣という手段から離れることなく制作し続けたいと望んでいます。

- 1967 桑沢デザイン研究所テキスタイル科 卒業  
1969 渡仏（～1974）  
1982 新制作展 以降毎年出品  
1983 新制作展 新作家賞受賞  
1984 個展／千疋屋ギャラリー この後5回開催 東京  
個展／不二画廊 大阪  
1987 個展／ギャラリー銀鮭（東京）  
個展／秋田ステーションホテル（秋田）  
新制作展 新作家賞受賞  
1988 二人展（三岸黄太郎・桜井玲子）  
（CENTER EURO-ASIE-INSEAD-FRANCE）  
現代作家タペストリー 10人展  
（日本橋高島屋 インテリア アートギャラリー）  
1989 現代作家タペストリーと彫刻展（東京）  
個展／ギャラリー無有（京都）この後2回開催  
個展／コスモギャラリー（東京）  
新制作協会スペースデザイン部会員推挙  
1990 建築空間とアート展（京都）  
個展／東京テキスタイル・フォーラム（東京）この後4回開催  
1992 現代作家タペストリーと彫刻展 草月会館（東京）  
1993 日本・海外現代作家タペストリーと彫刻展 草月美術館（東京）  
1994 現代作家タペストリー展 富士市文化会館（静岡）  
1995 個展／タケダエキジビットハウス（鎌倉）  
2000 個展／アトライフ・みつはし（京都）  
個展／ギャラリーカンディード（東京）この後2回  
2003 個展／宮崎県立美術館（宮崎）  
2005 個展／ギャラリー藍（東京）この後2年ごと開催  
個展／加藤ギャラリー（東京）  
2009 テキスタイル NOW 展（東京）この後毎年開催  
2010 テキスタイルアート・ミニアチュール展（東京）  
2018 個展／魚水堂ギャラリー（東京）

新制作協会会員  
スタジオ A Z 主宰